

第二百九十九回 青葉会

平成二十三年二月二十四日(木) 午後六時〜九時
丸紅一階レストラン バンケットルーム

〈選者〉

☆ 川合万里子 先生

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 小川恭延 柿崎忠彦 久米五郎太 小西弘子 豊田ゆたか

〈投句〉

中野一灯 橋口隆 福島正明 山崎亜也
伊賀山そらお 石川清 朱牟田恵洲 土谷堂哉 中山芳博 南平和夫 宮内規雄

〈紙上選句〉

山内天牛 渡邊盛雄
赤田堅 川口孤舟 庄司龍平 高梨由美子 高橋敏郎 早川允章 村田くに子
山崎青史 山本三恵

《選者吟》

昭子和子多き同期や建国日

(青…ちよつと前はダイスケ。今年は無ウキか。建国日が利いている)

万里子 (五・正・亜・青)

ゴシックは選者の天

烏ソロ雀コーラス春よ春

全 (猛・弘)

春草を引くや地球に引張られ

全 (孤・ゆ)

級友の庵主佇む枝垂梅

全 (一)

隣へと生垣を越え露の臺

全

《互選句》

七点

☆ 本読む夜蜩砂出す音微(かま)か

(☆…砂吐くでは?)

芳博 (万・猛・忠・ゆ・允・正・亜)

春愁ひ重たき母の裁ち鉢

正明 (孤・五・由・ゆ・一・允・三)

(孤…中七↓「母の重たき」ではどうでしょう)

六点

☆ 薄氷の木の葉閉ぢ込む手水鉢

(津軽じよんがらに警女の三下りという曲がある由)

堂哉 (堅・猛・恭・龍・由・一)

五点

☆ 日脚伸ぶ下校の子等の声高し

くるくると春転がしてパンダ来る

そらお (弘・龍・由・敏・隆)

(☆…中七↓「春を転がし」。「て」は不要)

弘子 (忠・五・ゆ・一・三)

納骨を終へて冷たし駅の椅子

全 (堅・恭・敏・正・く)

河東節演奏会

四点

☆ 梅見頃唄も聴き頃紀尾井町

夢詰めて卒業生の旅鞆

紀久男 (万・恭・敏・三)

(☆…上五「て」は不要。↓「夢を詰め」)

忠彦 (敏・隆・允・く)

☆ 春寒や子猿飛び込む母の胸

☆ 禅林に産着吹かるる梅三分

弘子 (忠・敏・隆・く)

☆ 雛の日や女子会日和に黒一點

春寒や箱根関所の牢屋跡

一灯 (万・恭・孤・ゆ)

(☆…「に」はきついで、上五↑↓下五入れ替える)

亜也 (万・猛・隆・正)

三点

盆梅や赤坂名妓と復習(さらひ)をり

うららかや窓に雀の聴講生

紀久男 (堅・五・亜)

炬燵塞ぐ退職の躰固めし日

弘子 (堅・一・隆)

☆ 如月のやうやく成りし仕事かな

老境のピアニストの家ミモザ咲く

堂哉 (ゆ・允・亜)

発車待つ車内に春風訪へり

隆 (万・亜・三)

二点

包丁にしなやかな抵抗春キヤベツ

亜也 (紀・敏・三)

恭延 (猛・龍)

忠彦 (堅・五)

☆粒少し残す母流納豆汁

(青：母流というのが面白い。何事にも自己流があるもの)

弘子 (万・青)

町会の役逃れ得で冴え返る

(青：御苦労様です。まさに冴え返る思いでしょう)

恵洲 (正・青)

不揃ひの春大根の土洗ふ

民(たみ)のハワー砂漠巻き上げ春嵐

堂哉 (由・隆)
ゆたか (恭・く)

近江路の区割り正しき雪田かな

全 (紀・由)

雪解けの光満ちくる榎林

一灯 (孤・龍)

角巻の襟毛羽立てる担ぎ売り

全 (紀・弘)

如月や慣習といふ火山灰

正明 (忠・三)

☆雪達磨ばけつの帽子ちよいと曲げ

(☆：下五「ちよと傾げ」では?)

規雄 (万・允)

☆君の死を知らないままに春迎へ

晩年のいよいよ永し蜃気楼

盛雄 (万・紀)
全 (堅・弘)

列になりリュツクの通る梅見かな

そらお (恭)

初午や心はやれど床の中

清 (五)

春昼や仔犬と戯むる親子連れ

全 (く)

助けたや春の大地震(なな)瓦礫下

全 (忠)

豪雪や傘寿の叔母の嘆きやう

紀久男 (青)

(青：近来稀な豪雪でした。傘寿の人にはこたえるでしょう)

雪掻きの真似事なるも腰痛し

猛 (紀)

春風と被った帽子奪ひ合ひ

忠彦 (猛)

我孫子行き春一番にご用心

五郎太 (忠)

柔毛立つ辛夷の蕾時を待つ

全 (由)

☆母の忌に翌日気付く余寒哉

人形焼顔見くらべつ春芝居

恵洲 (万)

春の雪替え靴持ちちてお出かけか

ゆたか (紀)

春めくや九十二歳の旅切符

隆 (亜)

雪解けの水が砂漠に押し寄せる

全 (弘)

建国日すうすうしてる脇の下

正明 (弘)

(青：すうすうを防ぐ為、核武装でもしますか?)

始発の音聞こえている雪の朝

全 (青)

どの子とも仲よし小よし雪だるま

和夫 (紀)

☆祥月に墓参する日の春の泥

規雄 (龍)

(☆：季重なり。↓「春泥の祥月命日墓の前」)

亜也 (万)

●次回青葉会

三月二十四日(木) (第三百回) 午後六時〜九時

丸紅一階談話室

▲今年度会費集めます。(ア寿)

▲300回記念合同句集の作品募集(各自20句。切は三月末)

四月二十八日(木) 300回記念向島吟行(会費 ム寿)

五月下旬 300回記念合同句集上梓

以上文責

紀久男

平成二十三年二月青葉会

一、今回は久しぶりの五郎太さんら12名出席。投句はロータリークラブの行事と重なった天牛さんら9名。弘子さんの披講と合評の司会で御覧のように正明さん芳博さんがトップ。一灯さん堂哉さんが次点でした。

先生お手製のミートロース、弘子さんのゴデイヴァのチョコ、一灯さんの薫製鮭ハラス（八戸土産）、五郎太さんの大吟醸「鶴齢（かくれい）」（魚沼土産）、亜也さんの純米大吟醸「大信州」、そして仙台在住・小野寺統男さん寄贈の純米生酒「浦霞」一升壇：「酒でも飲んで畏友を偲びましょう」（和田さん村岡さんら）とのメッセージ付き：と美酒・おつまみを賞味し乍ら談論風発、時間不足気味でした。

二、関係者近詠

兄ちゃんを落葉へ埋める姉妹

万里子

急がない旅こそ木曾路祭笛

盛雄

終園や喚く迷子へ総落葉

全

義仲は吾が血筋かな村芝居

全

渋滞の車間を走る夕落葉

全

2010大阪俳人クラブ合同句集

允章

マスクして目力頼り会釈せり

眞希子

登校の子等にぎやかに春の雪

全

短日や値引きシールの重ね貼り

全

水神の見下ろすあたり犬ふぐり

全

大笑ひ小ゑんが納め年詰る

全

ニュージランドなみ

全

柿すだれ甘さの程に自信あり

恭延

新西蘭地震の悲報や凍返る

全

柚子風呂に独り入りてはしやぐ児

和夫

完熟の圓歌の話芸春の寄席

全

大寒波期待の売り場に長い列

全

二月やアメリカ夫人のアンブラッセ

天牛

頬被りしてより婆の気丈かな

弘子

雪下ろす老人痛まし過疎極み

ゆたか

穂穂を挿して注連緋ふ長子の手

全

四半世紀続く句会や浅き春

正明

なり手なき羊さておき聖夜劇

全

鳥の博物館

全

焼き芋を少女のやうに買ふ老女

忠彦

カラハリの弓矢に会いし手賀の春

五郎太

お歳暮のお礼の後を長電話

全

大雪に埋まる湯宿の湯の煙

紀久男

口貰ひ喋り出したる雪だるま

奥西邦夫

梅一輪不世出の役者逝く

全

『萬緑』3月号

富十郎追悼

全

〔NHK俳句〕3月号 三村純也選

風花の生れしところを御空といふ

丹野敦雄

三、300記念合同句集に投句及び寄稿願いたき件（三月末迄）

会員各位に20句及び評論、随筆を募っておりますが、会員外の皆様からも5〜10句及び俳句エッセー等お寄せ頂ければ掲載しますので奮って御応募下さい。

お問い合わせは今井迄 Tel/Fax 042・401・5108

四、300回記念向島吟行

四月二十八日（木）雨天決行

午後二時〜五時半 百花園・長命寺・三囲神社を予定

午後六時〜九時 料亭「きよし」にて句会及び祝宴（会費ム寿）

五、東日本大震災

青葉会創立時のメンバー村岡英樹さん一周忌に上阪。帰りの伊丹空港の出発ロビーのTVに釘付け。周囲は騒然。不安と恐怖に駆られ、被災者の無事を願った。

マネキン人形着換えを終えてずらり春着のショーウインドー 恵洲

〔NHKラジオ折込都々逸「ま・き・ず・し」〕

平成二十三年三月十二日

紀久男記